

【第 97 回対策本部会議】 8 月 24 日

健康福祉部長／18 日に過去最多の 182 人の感染者が出て、この 1 週間は合計 884 人になった。入院患者は 234 人、病床使用率は 61.6%、うち 2 人は重症で重症用の病床使用率は 4.2%。ホテル療養は 269 人で使用率は 54.3%。自宅療養者は 454 人。自宅療養者には、健康観察と生活支援を行っている。また、保健所、ホテル、自宅療養支援センターに 100 人以上の職員を派遣し、全庁挙げて体制を強化している。

今一度、感染予防の徹底をお願いする。マスクを着用していても、話をするときにマスクをずらしたり、外したりする人がいる。マスクには、周囲からの飛沫を防ぎ自分を守る効果と、自分の飛沫を周囲に飛ばさない働きがある。話をするときは、マスクをしっかりとつけてほしい。

年代別の感染状況は、40 代以下が 8 割、30 代以下で 6、7 割を占めている。ワクチンは、発症予防と重症化予防に大きな効果がある。若い人も積極的な接種を考えてほしい。

保健所管内ごとの新規感染者数の推移(人口 10 万人当たり 7 日間移動平均線)

唐津管内の 7 日間移動平均は 35 人。1 週間にすると約 250 人、これは佐賀市の約 2.5 倍。また、この 1 週間の新規感染者の約 4 割が唐津市で発生。唐津市に強い対策を取る必要がある。

坂本副知事／旧唐津市内に限った感染者数で計算すると、佐賀市の 3 倍を超えている。旧唐津市への十分な対応が必要だ。

医療統括監／最近、気になっていることを話したい。

自覚症状が強くない自宅療養者が、医師の指示に従わず宿泊療養や入院をためらったり、症状が重く入院しても、医師の指示に適切に従わなかったり、円滑な治療導入ができないことがある。治療を開始するタイミングが遅れると、デルタ株は急速に病状が重くなり、ご本人が苦しむことになる。早期治療が重要だと認識してほしい。

医師は、最適・最善の治療を目指して努力している。適切な治療で悪化を防ぐことも、医療のひっ迫を抑えることにつながる。ぜひ、医者 of 言うことをよく聞いて、病状に向き合い、必要な治療を受けてほしい。

唐津市長／唐津市に対する、県や当局のご尽力に感謝申し上げます。

8 月 17 日に新型コロナの緊急宣言を発出した。現在、市有施設 263 施設は一定期間休止。20 日からは、車での広報活動。また、旧唐津地区の中心市街地で、市職員が啓発活動を行っている。その中で、市民から宿泊療養施設の要望もあった。学校関係では、25 日から運動

会や午前中の授業を予定している学校もあったが、すべて中止とした。

5月の感染者数は152人、6月は16人、7月は24人だったが、8月は昨日までで546人。40代までの感染者が8割を占めている。

県のお力添えで、抗原検査センターを設置した。ドライブスルー式は、LINEで予約した人が車で入場ゲートから入り、待機場所で待つ。順に、接種会場テントに移動し、乗車したまま検査し、出口ゲートから出ていくよう動線を整えている。

また、隣接する「唐津市ふるさと会館アルピノ」では、ウォークスルー式で予約なしで検査ができる。23日から始め、ドライブスルー221人、ウォークスルー65人、計286人。24日15時現在で、ドライブスルー158人、ウォークスルー62人、計220人の利用があった。陽性者は出ていない。

ワクチンの職域接種が始まる。9月6日から平日18時から20時で行い、予約は8月24日から。22日現在のワクチン接種率は、1回目終了が52.9%、2回目終了が45.6%。

また、8月19日付で曳山取締役会から14町に、以下の緊急通達が発信された。

- ・曳子全員で感染防止と啓蒙活動に努めれば、唐津市内の感染拡大防止に向け、大きな効果が期待され、県民、市民の皆さまにも支持されるものと考えます。
- ・手指消毒、マスク着用の徹底、会議等は感染対策を施した上で、最低時間・最低人員で行う。
- ・可能な限り、新型コロナウイルスワクチン接種を行うこと。

ほかにも、FMからつや市民が自主的にSNSで「抗原検査を受けましょう」と周知している。市民が一丸となって拡大を抑えるよう取り組んでいる。

知事／ドライブスルーとウォークスルーで感染者が0人という結果を、どう評価したらいいのだろう。

唐津市長／始めて2日間のことでもあるし、日ごろから用心している人が検査を受けたのではないかと推察している。

知事／感染予防対策に熱心に取り組む人が、行動を起こしているということ。だから、予断を許さない。

医療統括監／陰性だからと安心してはいけない。佐賀大学の青木教授は、感染予防行動が少し弱くなっていることに注意する必要があると言われた。検査の限界もあるので、引き続き予防行動を怠らないように取り組んでほしい。

知事／唐津の保健所が懸命に接触者を追っている。続けていけば、先に明かりが見えてくる可能性がある。抗原検査で陽性者が多くでるようなら、市中蔓延の可能性が高かった。まだ、そこまではっていないのか。

医療統括監／感染しやすい行動をしている人々の中で感染ループが起こっているのではない。一般の方々の陽性率が高いのではないと思うが、今後も注視しなければいけない。

知事／峰市長も尽力されている。この危機を克服できたら、唐津にとって大きな成果となる。我々も全力で支援していく。

教育長／現在、学校は夏休み期間だが、児童生徒の新規感染者数は増加している。今年1月以降、各学校で感染対策を徹底していたが、先日は県立高校の部活動でクラスターが発生した。2学期の始業式を控えているので、緊張感を高めていきたい。

部活動は、校内の活動に限定している。その中でも、身体の接触を伴うリスクの高い活動は自粛すること。部室の使用は短時間、少人数、マスクの着用、飲食禁止を徹底する。また、練習時間前後の気が緩むときの感染対策を徹底していきたい。

9月に体育祭や文化祭を計画している学校が多いので、

- ・練習段階から密集する種目や組み合って接触する活動を行わない
- ・声を発生する活動は最小限の範囲とする
- ・応援の練習は、屋外、間隔2m以上、短時間、マスク着用の徹底

このような要望の徹底を、各学校や市町の教育委員会と共通認識を図る取り組みをしたい。

知事／18日に県独自の医療環境を守るための非常警戒措置を発表した。これは、重症者、中等症、ホテル療養のそれぞれに空きを確保するため。空きを維持するために自宅療養を導入せざるを得なかった。しかし、空きがあることで、救急車が機能する。

佐賀県の特徴の一つは、感染したときの初期医療。まず、保健所の医師が診察し、どこで療養するかを決める。これが後回しになり、診断されないままの自宅療養ではない。そして、症状に応じて「プロジェクトM」で、上り下りの対応をすることを大事にしている。

旧唐津市の新規陽性者数は、緊急事態宣言地域に匹敵する水準となった。旧唐津市は、団結心があり、この困難を克服できると期待している。

第5波の特徴は、40歳代以下が約8割。若い人と10歳未満の子どもの家族や小・中学生の感染者も増加している。

新学期に備え、健康観察カードを作成し配布した。毎日の検温をお願いする。少しでも熱が

あれば、登校しない勇気をもってほしい。これは、大人も同じ。ひとたび感染者が出れば、学校の対応に負荷がかかる。事前の健康観察を徹底することで、安心して2学期を迎えられるよう、県民の皆さんと共有していきたい。

ワクチン接種は、感染リスクを低くし、重症化を予防するとデータが裏付けている。接種できる人が多く接種することで、大きな効果が得られるので、積極的に接種をお願いしたい。

自宅療養を18日から導入し、すでに400人超となった。自宅療養は縮小していきたいが、感染者数に比例するので、感染者数が減らない限り自宅療養数も減らない。病床やホテルを増やす努力をしている。また、臨時的な医療施設の開設準備も行い、その体制づくりに鋭意努力している。

初期医療の段階で、医師の指示に従わない症例がいくつかある。悪化しても、医師の診断後に患者の自己判断で治療が止まることがある。中等症になると、生きてきた中で一番苦しいと皆さんおっしゃる。初期の対応が悪化を防ぐので、医師の指示に従ってほしい。

豪雨災害でもコロナ対策でも、県民の命を失わないよう尽力することを第一にしている。

改めて、この厳しいなか苦勞されている医療従事者の皆さん、職員の皆さん、ワクチン現場の皆さん、保健所の皆さんに心から感謝申し上げる。

誹謗中傷ではなく、エールを送り合い、励まし合いながら克服できるのが佐賀県だと思っている。佐賀県の底力を見せていきたい。